

対象年度	令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート				
事務事業名	認知症サポーター等養成事業					予算事業名	認知症サポーター等養成事業費
予 算 科 目	会計	04	款	項	目	事業	要求区分
			03	03	03	1607	経常経費
総合計画体系	1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)					事業の区分	主要事業
	1-4ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実（高齢者福祉）						重点事業
	②地域包括ケアシステムの構築					担当課係等	長寿福祉課
3認知症対策の推進							地域包括支援センター
事業期間	継続（平成20年度～令和 4年度）						
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】				【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
認知症に対する正しい知識を持つ支援者が地域に増えることで，認知症になっても安心して暮らせる。				地域支援事業において，市の任意事業として位置づけられている。			
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】				【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】			
認知症の知識を普及啓発するため，講演会や認知症サポーター養成講座等を実施する。				地域住民，高齢者に関わる団体・企業等			
				【事業をとりまく環境の変化】			
				急速な高齢化の進展に伴い，認知症高齢者は増加しているため，誰もが何らかの形で認知症に関わる可能性があると言える。			
【令和 2年度 事業内容】			【令和 3年度 事業内容】			【令和 4年度 事業内容】	
認知症の正しい知識を普及啓発するため認知症サポーター養成講座等を実施する。			認知症の正しい知識を普及啓発するため認知症サポーター養成講座等を実施する。			認知症の正しい知識を普及啓発するため認知症サポーター養成講座等を実施する。	

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	14	26			
	県支出金	7	13			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	16	30			
歳入計（千円）		37	69			
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	08 報償費	0	15			
	11 需用費	36	52			
	12 役員費	1	2			
歳出計（千円）（A）		37	69			
伸び率（％）			86.48			

備考 総合計画62ページ 予算書276ページ  
平成29年度まで：権利擁護事業費として予算に計上し権利擁護事業に含めていた。  
平成30年度から：地域支援事業実施要綱に沿い，認知症サポーター等養成事業費として予算を計上したため，シート作成。

# 平成30年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	認知症サポーター養成講座開催数	回	目標	20.00	25.00	30.00
	市民や高齢者に関わる関係者を対象に、結城市キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座を開催する。		実績	15.00	0.00	0.00
	認知症サポーターフォローアップ研修会の開催数	回	目標	1.00	1.00	1.00
	認知症サポーター養成講座受講者に対し、講座の復習や、よりステップアップした認知症に関する知識を学ぶフォローアップ研修を開催する。		実績	1.00	0.00	0.00
成果 指標	認知症サポーター養成数	人	目標	600.00	730.00	750.00
	認知症サポーターを増やす。		実績	784.00	0.00	0.00
	認知症サポーターフォローアップ研修会の受講者数	人	目標	15.00	25.00	30.00
	フォローアップを行うことで、地域での見守り体制を強化する。		実績	23.00	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	急速な高齢化の進展に伴い、認知症高齢者が増加しているため、必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	地域支援事業の任意事業として位置づけられ、実施主体は市町村となっている。
	手段の妥当性	A 妥当である	認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）において、認知症への理解を深めるため、認知症サポーター養成講座の実施を推進している。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	認知症サポーター養成講座の講師役を務めるキャラバン・メイトを増やすことで、より多くの講座を開催することが出来ると思われる。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	認知症サポーター養成講座の参加者の年齢がやや高い傾向にある。そのため、幅広い年齢層へ向け普及啓発をしていく必要がある。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	累計認知症サポーター数は増加している。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	上位同様。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
認知症サポーター数は増えているが、これまでの認知症サポーター養成講座への受講者は年齢層が高く、同じ団体からの講座開催依頼が多い傾向にあるため、講座開催先の新規開拓が必要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
①平成29年度から市内小学校（5年生向け）で1年に3校ずつ認知症サポーター養成講座を開催しており、令和元年度で計画が終了する。令和2年度以降は、受講していない生徒が出ないよう、9校全ての小学校で毎年1回ずつ認知症サポーター養成講座を開催するために担当課との協議を行うほか、キャラバン・メイト連絡会会員の増員を目指していく。 ②高齢者が利用する市内商店や金融機関で認知症サポーター養成講座を開催する。			

## ■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
<input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）	
高齢者の増加に伴い、認知高齢者の増加が見込まれているため、地域において認知症に関する知識を普及することは重要であり、地域での見守り体制の一助として事業を継続する。	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
<input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）	
上記評価のとおり。	